TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　633語

How Flax was given to Men

アマ（亜麻）が人にさずけられたわけ

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Raybrite

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　山で女神ホルダに会ったかりゅうど。宝石の山の中から、なぜか小さな青い花をえらびました。その花のひみつとは？

"You have been on the mountain a long time," said the wife of the hunter.

"Yes, wife, and I have seen the most marvelous sight in all the world," replied the hunter.

"What was that?"

"I came to a place on the mountain where I had been many and many a time before, but a great hole had been made in the rock, and through the hole I saw—oh, wife, it was indeed a wonderful sight!"

"But what was it, my hunter?"

"There was a great hall, all shining and sparkling with precious stones. There were diamonds and pearls and emeralds, more than we could put into our little house, and among all the beautiful colors sat a woman who was fairer than they. Her maidens were around her, and the hall was as bright with their beauty as it was with the stones. One was playing on a harp, one was singing, and others were dancing as lightly and merrily as a sunbeam on a blossom. The woman was even more beautiful than the maidens, and, wife, as soon as I saw her I thought that she was no mortal woman."

"Did you not fall on your knees and ask her to be good to us?"

"Yes, wife, and straightway she said: 'Rise, my friend. I have a gift for you. Choose what you will to carry to your wife as a gift from Holda.'"

"Did you choose pearls or diamonds?"

"I looked about the place, and it was all so sparkling that I closed my eyes. 'Choose your gift,' she said. I looked into her face, and then I knew that it was indeed the goddess Holda, queen of the sky. When I looked at her, I could not think of precious stones, for her eyes were more sparkling than diamonds, and I said: 'O goddess Holda, there is no gift in all your magic hall that I would so gladly bear away to my home as the little blue flower in your lily-white hand.'"

"Well!" cried the wife, "and when you might have had half the pearls and emeralds in the place, you chose a little faded blue flower! I did think you were a wiser man."

"The goddess said I had chosen well," said the hunter. "She gave me the flower and the seed of it, and she said, 'When the springtime comes, plant the seed, and in the summer I myself will come and teach you what to do with the plant.'"

In the spring the little seeds were put into the ground. Soon the green leaves came up; then many little blue flowers, as blue as the sky, lifted up their heads in the warm sunshine of summer. No one on the earth knew how to spin or to weave, but on the brightest, sunniest day of the summer, the goddess Holda came down from the mountain to the little house.



"SHE GAVE ME THE FLOWER"

"Can you spin flax?" she asked of the wife.

"Indeed, no," said the wife.

"Can you weave linen?"

"Indeed, no."

"Then I will teach you how to spin and to weave," said the good goddess. "The little blue flower is the flax. It is my own flower, and I love the sight of it."

So the goddess sat in the home of the hunter and his wife and taught them how to spin flax and weave linen. When the wife saw the piece of linen on the grass, growing whiter and whiter the longer the sun shone upon it, she said to her husband, "Indeed, my hunter, the linen is fairer than the pearls, and I should rather have the beautiful white thing that is on the grass in the sunshine than all the diamonds in the hall of the goddess."

「ずいぶん長いこと山にいたのね」と、かりゅうどのおくさんが言いました。

「ああ、おまえ。世界でいちばんふしぎなものを見てきたんだよ」と、かりゅうどは答えました。

「それは何？」

「山の、何度も何度も行ったことのある場所に来たら、岩に大きなあながあいていてね。そのあなからのぞいたら――ああ、おまえ、本当にすばらしいながめだったよ！」

「でも、それは何だったの、あなた？」

「大きな広間があって、宝石でぴかぴかきらきらかがやいていたんだ。ダイヤモンドやしんじゅやエメラルドが、うちの小さな家に入りきらないほどあって、その美しい色の中に、それよりももっと美しい女の人がすわっていた。まわりには、つかえるむすめたちがいて、広間は宝石と同じくらい、むすめたちの美しさで明るかった。ひとりはたて琴をひき、ひとりは歌い、ほかのむすめたちは、花の上の日の光のように、かるがると楽しそうにおどっていた。その女の人は、むすめたちよりもっと美しくてね。おまえ、ひと目見たとたん、人間の女の人ではないと思ったよ。」

「ひざまずいて、わたしたちによくしてくださいとおねがいしなかったの？」

「したとも。するとすぐに、その人は言ったんだ。『お立ちなさい、友よ。あなたにおくり物があります。ホルダからのおくり物として、おくさんに持って帰りたいものを、何でもえらびなさい。』」

「しんじゅをえらんだの？ それともダイヤモンド？」

「あたりを見まわしたけれど、あまりにきらきらしているので、目をつぶってしまった。『おくり物をえらびなさい』とその人は言った。その人の顔を見て、本当に空の女王、女神ホルダだとわかったんだ。その人を見ていると、宝石のことなんか考えられなかった。その目はダイヤモンドよりもかがやいていたからね。それでわたしは言ったんだ。『女神ホルダさま、この魔法の広間のどんなおくり物よりも、あなたのユリのように白い手にある、その小さな青い花を、よろこんで家に持って帰りたいのです。』」

「まあ！」とおくさんはさけびました。「そこのしんじゅやエメラルドを半分ももらえたかもしれないのに、しおれた小さな青い花をえらんだなんて！もっとかしこい人だと思っていたのに。」

「女神さまは、よいものをえらんだとおっしゃったよ」と、かりゅうどは言いました。「女神さまは花とそのたねをくださって、こうおっしゃった。『春が来たら、このたねをまきなさい。夏になったら、わたしが自分で来て、この草をどうすればよいか教えましょう。』」

春になると、小さなたねが土にまかれました。まもなく緑の葉が出てきて、それから空のように青い小さな花がたくさん、夏のあたたかい日ざしの中で顔をあげました。地上ではだれも、糸をつむぐことも、ぬのをおることも知りませんでした。けれども、夏のいちばん明るく、よく晴れた日に、女神ホルダが山から小さな家へおりてきました。

「女神さまは花をくださった」

「アマから糸をつむげますか？」と女神はおくさんにたずねました。

「いいえ、できません」とおくさんは言いました。

「リネンのぬのをおれますか？」

「いいえ、できません。」

「では、糸のつむぎ方と、ぬののおり方を教えてあげましょう」と、やさしい女神は言いました。「この小さな青い花がアマです。わたしの花で、見ているのが大好きなのです。」

こうして女神は、かりゅうどとおくさんの家にすわって、アマから糸をつむぎ、リネンのぬのをおる方法を教えました。草の上にひろげたリネンのぬのが、お日さまにてらされるほど白く白くなっていくのを見て、おくさんは夫に言いました。「本当ね、あなた。このリネンはしんじゅよりも美しいわ。女神さまの広間のダイヤモンドをみんなもらうより、日なたの草の上にある、この美しい白いもののほうがずっといいわ。」

たんご と クイズ　アマ（亜麻）が人にさずけられたわけ

hunter	かりゅうど	**flax**	アマ（ぬのになる草）	**diamonds**	ダイヤモンド
seed	たね	**linen**	リネン（アマのぬの）	**goddess**	女神
spin	糸をつむぐ				

Q1 かりゅうどがえらんだおくり物は？

① ダイヤモンド　② 小さな青い花　③ しんじゅ

Q2 青い花の名前は？

① アマ　② スミレ　③ ユリ

Q3 女神ホルダが教えてくれたことは？

① 魚のつり方　② たて琴のひき方　③ 糸をつむいでぬのをおること

こたえ

Q1 ②　かりゅうどは宝石ではなく、女神ホルダのユリのように白い手にあった、小さな青い花をえらびました。

Q2 ①　女神は「この小さな青い花がアマ（flax）です。わたしの花で、大好きなのです」と教えてくれました。

Q3 ③　女神はかりゅうどの家にすわって、アマから糸をつむぎ、リネンのぬのをおる方法を教えてくれました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Raybrite（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。